
Oral (Theme) | 学校保健体育研究部会 | 【課題B】保健体育授業をいかに良質なものにするか

学校保健体育研究部会【課題B】口頭発表⑤

Chair: Junji Hosogoe

Thu. Aug 31, 2023 9:00 AM - 9:59 AM RY203 (良心館2階R Y 2 0 3 番教室)

9:00 AM - 9:14 AM

[学校保健体育-B-17]持久走单元における ICT機器の利活用（教）

コミュニケーションの活性化をねらいとして

*Koji Murase¹, Akihisa Umezawa² (1. Wakayama university, 2. Yokohama national university)

これまで持久走单元は、体づくり運動や陸上運動のなかで、タイムやペースを目標として実践されてきた。しかし、このような実践は「つらい」、「きつい」といった印象を多く残してきた。運動の得意な児童・生徒、特に日常的に走っている者は、つらさを克服するトレーニングを経てきており、その耐性も高いであろう。一方で、そのようなトレーニングを経ていない者は、とてもきつく感じてしまい運動を苦手とするきっかけとなりえる。特に持久走は将来、最も手軽に参加できるジョギングにつながるものであり、それに対して強い嫌悪感を生み出すことが想定される。

本研究は心拍数計を用い、仲間がその心拍数をモニタリングすることで、心拍数をコントロールする声掛けを行う「マイペースランニング」を実践した。これによって、コミュニケーションが生み出され、持久走への態度を向上させることをねらいとした。本実践において、ほとんどの子どもたちの心拍数は200を越しており、主観的運動強度においても「かなりきつい」レベルに達していた。そのため、「抑えて」「もっとゆっくり」といった子ども同士のコミュニケーションが生み出された。本研究はその单元で得られた感想を分析し、子どもたちの持久走に対する態度の変化を明らかにする。